marantz®

Model PM-11S3　取扱説明書

Integrated Amplifier

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。

お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。

火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。

火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

火災・感電の原因となります。

特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。

水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。

内部の点検・調節・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。

感電の原因となります。

接触禁止

高温注意

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。

機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐに電源コンセントからプラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切っても電源コンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜くことができるようにしてください。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

必ず実施

禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

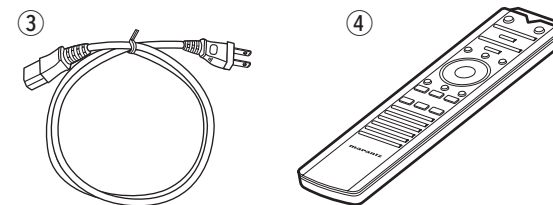
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前に、この取扱説明書をお読みの上、正しくご使用ください。
- お読みになったあとは、「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、ご了承願います。
詳しくは、保証書の裏面をご覧ください。

目次

付属品について

ご使用の前にご確認ください。

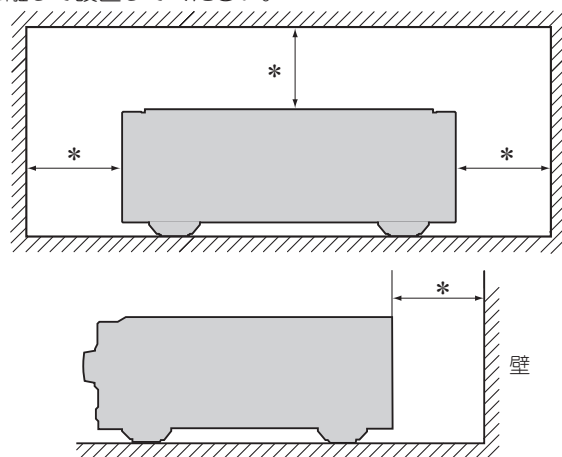
① 取扱説明書（本書） 1
② 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内 1
③ 電源コード【本機専用】 1
④ リモコン（RC001PMSA） 1
⑤ 単4乾電池 2
⑥ 保証書（梱包箱に貼り付けられています） 1

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

本機内部の放熱をよくするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

＊ 30cm 以上離す

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音（ノイズ）が入ることがあります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1 〜 2 時間放置してから使用してください。

お手入れについて

キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、やわらかい布を使用して軽く拭き取ってください。

- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

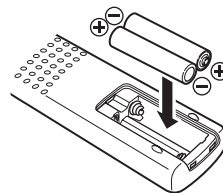
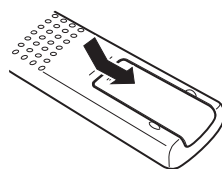
リモコンについて

このリモコンでは、本機とマランツ製のスーパーオーディオ CD プレーヤーの操作ができます。

- 一部操作ができない製品もあります。

乾電池の入れかた

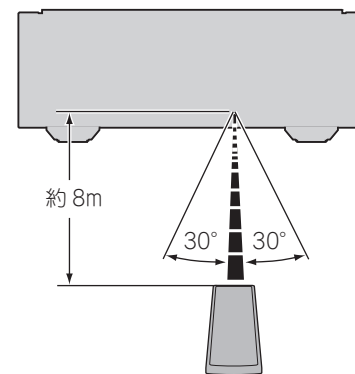
① 裏ぶたを矢印の方向に引き上げる。

② 単4形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示とおりに入れる。

③ 裏ぶたを元のとおりにする。

ご注意

- リモコンには単 4 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。
- 充電式電池をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

- リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線があたると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- 3D 映像機器を構成している各ユニット（モニター、3D 視聴用メガネ、3D 信号伝送ユニットなど）間の信号の伝送を無線通信（赤外線通信など）でおこなっている 3D 映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは 3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

本機の特長

HDAM® SA3 モジュール
上級モデルで開発した HDAM® SA3 を搭載しました。本機では電流帰還型の PHONO イコライザー、バランスバッファー、入力バッファーなどにこの HDAM® SA3 を多数使用しています。

コンスタント・カレント・フィードバック型 PHONO イコライザー
上級モデルで開発したコンスタント・カレント・フィードバック型の PHONO イコライザーを搭載しました。NF 型 PHONO イコライザーと CR 型 PHONO イコライザー両方式の長所を併せ持つマランツ独自の方式で MM カートリッジおよび MC カートリッジに対応します。

電流帰還型バランスバッファーアンプ
スーパーオーディオ CD プレーヤーや D/A コンバーターなど優れたバランス出力を持つ機器からの信号を忠実に伝送するため、HDAM® SA3 を駆使した電流帰還型バランスバッファーアンプを搭載しました。

全ライン入力端子専用入力バッファーアンプ
CD、LINE 1、LINE 2、RECORDER 1、RECORDER 2 すべての入力端子に HDAM® SA3 で構成した入力バッファーアンプを搭載しました。これらのバッファーアンプを入力端子からすぐの回路に配置したため、各入力ソース間の相互干渉を防ぎ、入力ソースからの信号を忠実に伝送します。

リニアコントロール・ボリューム
上級モデルのデザインコンセプトを踏襲したリニアコントロールボリュームを搭載しました。Micro Analog Systems 社 MAS6116 と HDAM® SA3 を組み合わせ、更に S/N 比を向上させました。0 〜 − 100dB の範囲を ± 0.5dB ステップでスムーズにコントロールします。

トーンコントロールアンプ
BASS（低音）と TREBLE（高音）を 2dB ステップで± 8dB の範囲で調節可能な電子式トーンコントロールアンプを搭載しました。

2 アンプ構成
上級モデルのデザインコンセプトを踏襲しボルテージアンプとパワーバッファーによる 2 アンプ構成としました。2 アンプ構成にすることでパワーバッファーが強力にスピーカーをドライブし、スピーカーからの逆起電力の影響をも遮断します。ボルテージアンプは低歪でパワーバッファーをドライブします。

新型電流帰還型パワーアンプ
パワーアンプのノイズをより抑えるため、回路を低インピーダンス化しました。これにより自然な音場空間を再現します。

F.C.B.S. 制御
フローティング・コントロール・バス・システムは PM-11S3 を最大 4 台まで接続して連動動作させる機能で、コンプリートバイアンプやマルチチャンネルなど多彩な用途で使用することができます。また、接続した複数の PM-11S3 間でアースループが生じないため音質への悪影響はありません。

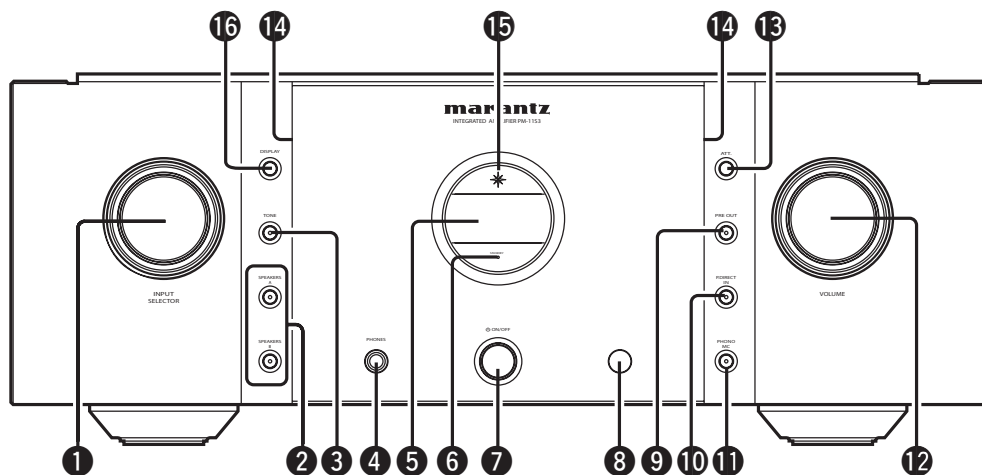
Bi-AMP モード
マランツが提案したコンプリートバイアンプ接続はこれまでにない音場空間を再現可能としています。2 台の PM-11S3 をそれぞれモノラル・インテグレーテッドアンプとして動作させるバイアンプモードとし F.C.B.S.（フローティング・コントロール・バス・システム）制御で連動動作します。

パワーアンプ・ダイレクト・イン
パワーアンプ・ダイレクト・インモードでは、本機はパワーアンプとして動作します。ホームシアター用などにもお使いいただけます。

ディスプレイ
本機のディスプレイに LCD（液晶表示板）を採用しました。他の方式のディスプレイに比べて駆動電力が少なく輻射ノイズが小さいため、音質への影響が極めて小さくなっています。

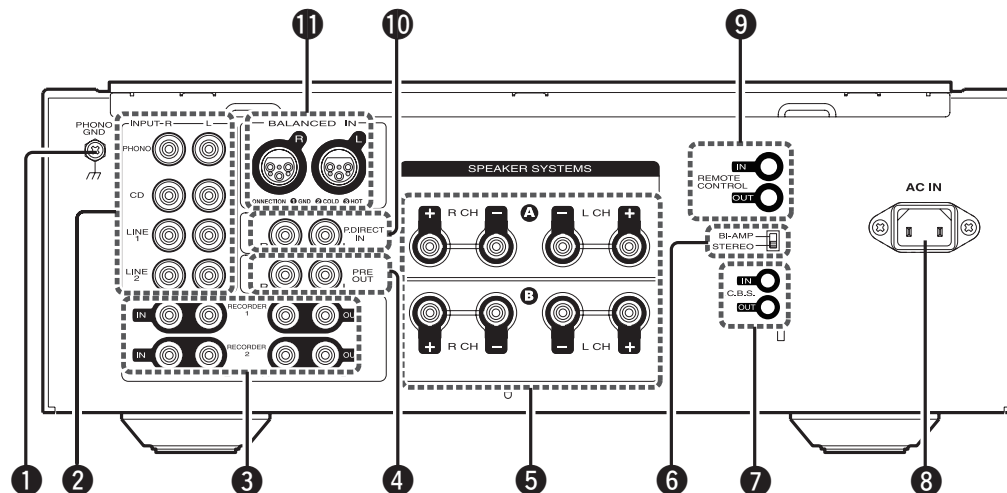
各部の名前

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページを参照してください。

フロントパネル

❶ 入力切り替えつまみ (INPUT SELECTOR)……(13)
❷ スピーカー出力切り替えボタン (SPEAKERS A、B)……(13)
❸ トーンボタン(TONE)……(14)
❹ ヘッドホン端子(PHONES)……(15)
❺ ディスプレイ
❻ スタンバイ表示……(13)
本機の状態により次のように変わります。
- 電源オン時： 消灯
- スタンバイ時：赤色
- 電源オフ時： 消灯

❼ 電源スイッチ(⏻ ON/OFF)……(13)
❽ リモコン受光部……(5)
❾ プリアウト切り替えボタン (PRE OUT)……(21)
❿ パワーアンプダイレクトモード切り替えボタン(P.DIRECT IN)……(21)
⓫ フォノイコライザー切り替えボタン (PHONO MC)……(12)
⓬ 音量調節つまみ(VOLUME)……(13)
⓭ アッテネートボタン(ATT.)……(15)
⓮ イルミネーションランプ……(15)
⓯ 電源表示……(13)
本機の状態により次のように変わります。
- 電源オン時： 青色
- スタンバイ時：消灯
- 電源オフ時： 消灯

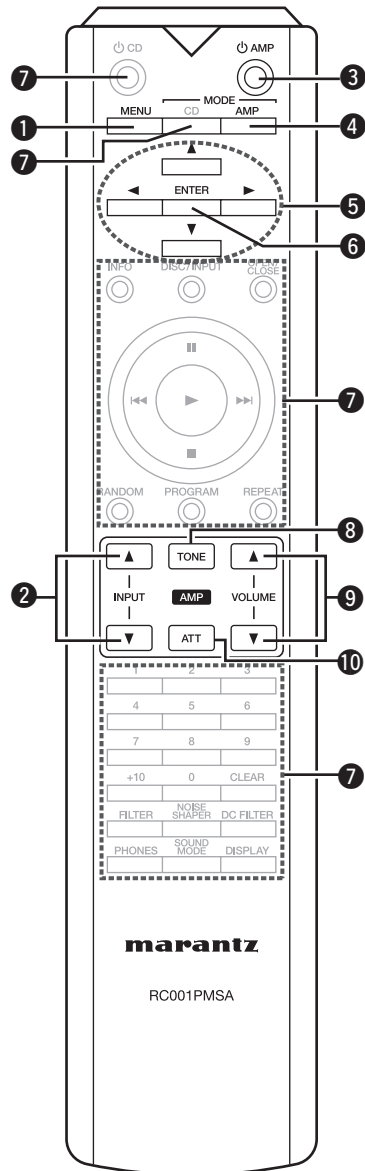
⓰ ディスプレイボタン(DISPLAY)……(15)

リアパネル

❶ アース端子(PHONO GND)……(12)

ご注意
この端子は安全アースではありません。

❷ 入力端子(INPUT)……(12)
❸ 録音入出力端子 (RECORDER1、RECORDER2)……(12)
❹ プリアウト端子(PRE OUT)……(21)
❺ スピーカー端子 (SPEAKER SYSTEMS)……(10、11)
❻ アンプモード切り替えスイッチ……(18)
❼ F.C.B.S.入出力端子(F.C.B.S.)……(16)
❽ ACインレット(AC IN)……(13)
❾ リモートコントロール入出力端子 (REMOTE CONTROL)……(22)
❿ パワーアンプダイレクト入力端子 (P. DIRECT IN)……(21)
⓫ バランス入力端子 (BALANCED IN)……(12)

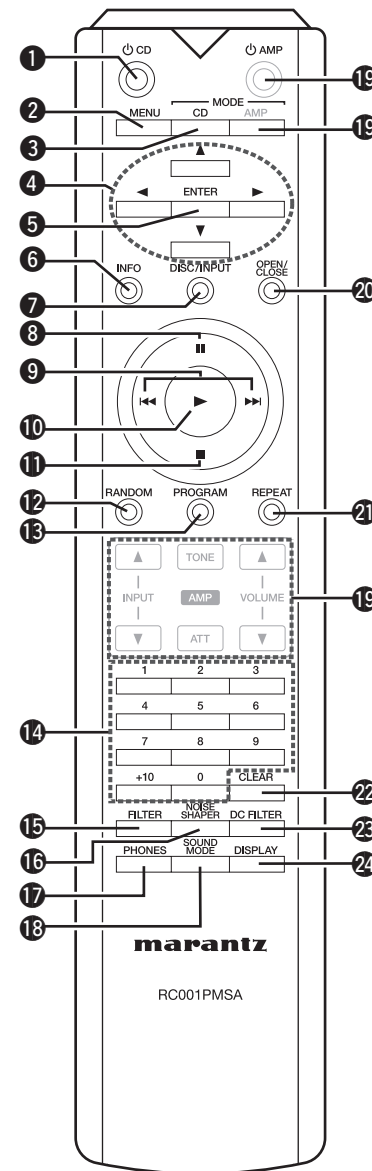
リモコン

❑アンプ操作用のボタン

❶メニューボタン（MENU）……………………（14）
❷入力ソース選択ボタン（INPUT）………（13）
❸アンプ用電源ボタン（⏻ AMP）…………（13）
❹リモコンモード切り替えボタン（MODE/AMP）……………………………………（14）
❺カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）……………（14）
❻エンターボタン（ENTER）…………………（14）
❼スーパーオーディオCD用ボタン
❽トーン切り替えボタン（TONE）…………（14）
❾音量調節ボタン（VOLUME ▲/▼）……（13）
❿アッテネートボタン（ATT）………………（15）

- このリモコンはマランツ製品のスーパーオーディオ CD プレーヤーを操作することができます。
- ご使用の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

一部操作ができない製品もあります。

❑スーパーオーディオ CD プレーヤー操作用のボタン

❶CD用電源ボタン（⏻ CD）
❷メニューボタン（MENU）
❸リモコンモード切替ボタン（MODE/CD）
❹カーソルボタン（▲/▼/◀/▶）
❺エンターボタン（ENTER）
❻情報表示切替ボタン（INFO）
❼入力切り替えボタン（DISC/INPUT）
❽ポーズボタン（❚❚）
❾スキップボタン（⏮、⏭）
❿プレイボタン（▶）
⓫ストップボタン（■）
⓬ランダムボタン（RANDOM）
⓭プログラムボタン（PROGRAM）
⓮数字ボタン（0〜9、+10）
⓯フィルターボタン（FILTER）
⓰ノイズシェーパーボタン（NOISE SHAPER）
⓱ヘッドホンボタン（PHONES）
⓲サウンドモードボタン（SOUND MODE）
⓳アンプ用操作ボタン
⓴ディスクトレイ開閉ボタン（OPEN/CLOSE）
㉑リピートボタン（REPEAT）
㉒クリアボタン（CLEAR）
㉓DCフィルターボタン（DC FILTER）
㉔ディスプレイボタン（DISPLAY）

基本接続

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくＬとＬ、ＲとＲを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルを一緒に束ねないでください。雑音の原因になります。
- PHONO 端子は非常に感度の高い端子ですので、レコードプレーヤーを接続しないで音量を上げないでください。接続せずに音量を上げた場合、“ブーン”という音がスピーカーから出ることがあります。

準備

接続に使用するケーブル

ご使用になる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

接続する機器について

SA（スーパーオーディオ）ソース再生時のご注意

SA ソース（DVD オーディオ、スーパーオーディオ CD などの可聴帯域を越える高域成分を含んでいるソース）に対応していないスピーカーを接続する場合は、プレーヤー（DVD プレーヤー、スーパーオーディオ CD プレーヤーなど）の特性をスピーカー（またはアンプ）に合わせて設定してください。

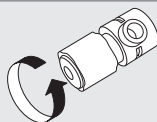
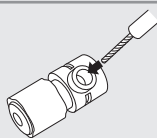
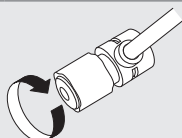
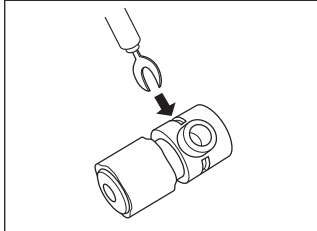
SA ソースの再生時に音量を上げすぎると、スピーカーを損傷することがあります。プレーヤーの設定については、プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

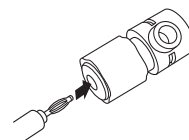
スピーカーの接続のしかた

スピーカーケーブルを接続する

本機とお使いになるスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(白)をよく確認し、同じ極性を接続してください。スピーカー端子はＹラグの接続にも対応しています。

1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるなど端末処理をおこなう。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

4 スピーカー端子を右に回してしめる。

Ｙラグ端子の場合

バナナプラグの場合

端子を右に回して締め付けてから挿入する。

ご注意

- 接続の際、スピーカーケーブルの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーケーブルの芯線どうし、および芯線がリアパネルやねじに接触しないようにご注意ください。故障の原因となります。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

スピーカーのインピーダンスについて

スピーカーの使用状況に応じてスピーカーのインピーダンスは次の範囲のものをお使いください。

接続するスピーカー端子	使用するスピーカーのインピーダンス
A	4～16 Ω
B	4～16 Ω
A と B の両方	8～16 Ω
バイワイヤリング接続	8～16 Ω

保護回路について

次のときに保護回路が動作します。

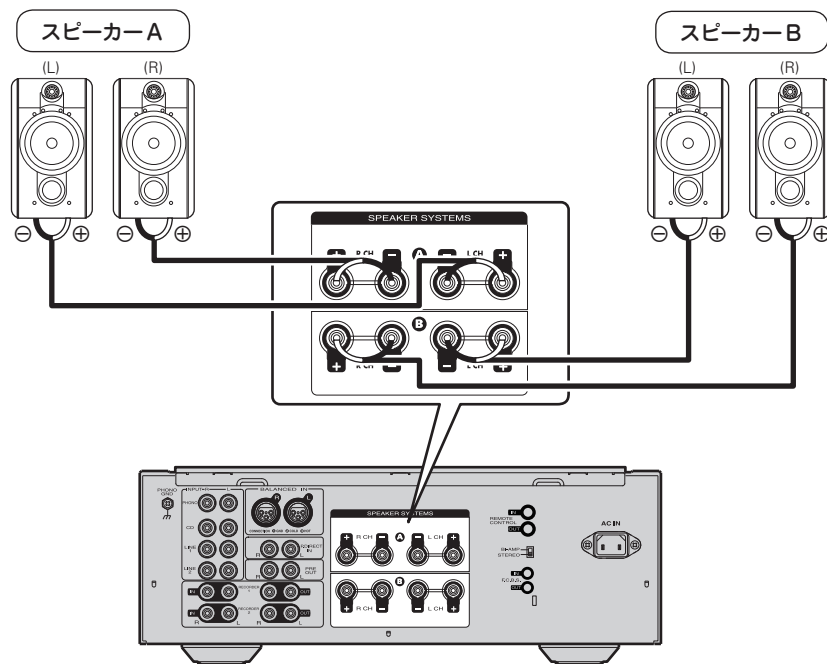
- スピーカーケーブルの芯線がリアパネルやねじに接触したり、スピーカーケーブルの＋、－側が接触しているとき
- 本機の周囲の温度が異常に高くなったとき
- 長時間大出力で使用して内部の温度が上昇したとき

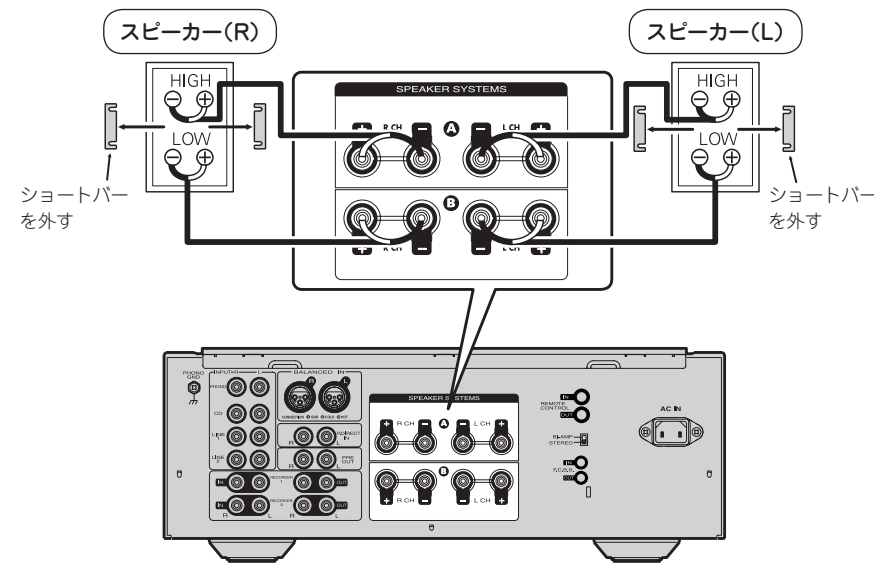
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が赤色に点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。

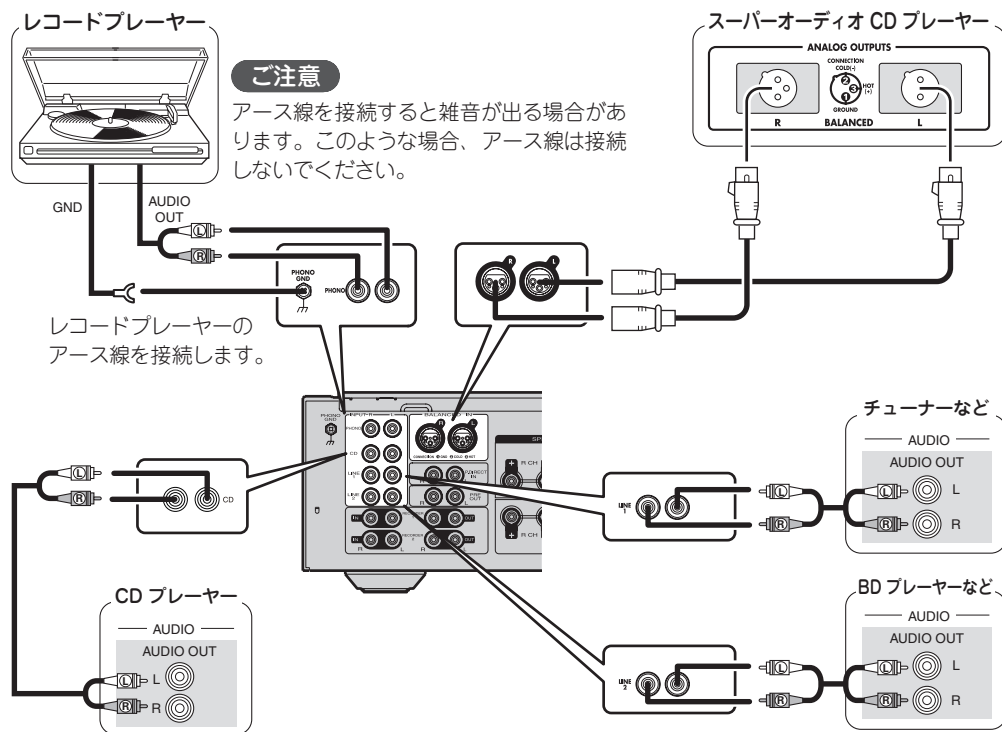
また、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待ち、周囲の通風状態を良くしてください。そのあと、もう一度電源コードを入れ直してください。

本機の周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず、保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、当社の修理相談窓口にご連絡ください。

スピーカーの接続

- SPEAKER A 端子と B 端子からは同じ信号を出力します。
- スピーカーを 1 組のみ接続するときは SPEAKER A/B 端子のどちらかに接続してください。

バイワイヤリング接続

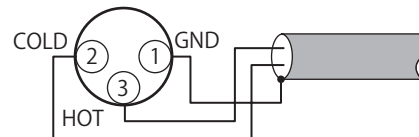
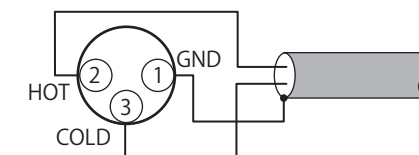
- バイワイヤリング接続に対応しているスピーカーの高域用入力端子にスピーカーA（または B）を、低域用入力端子にスピーカーB（または A）をそれぞれ接続してください。
- この接続では高域用スピーカーユニットと低域用スピーカーユニット間の信号の干渉の影響を低くおさえることができるため、高品位な再生をお楽しみいただけます。

再生機器の接続のしかた

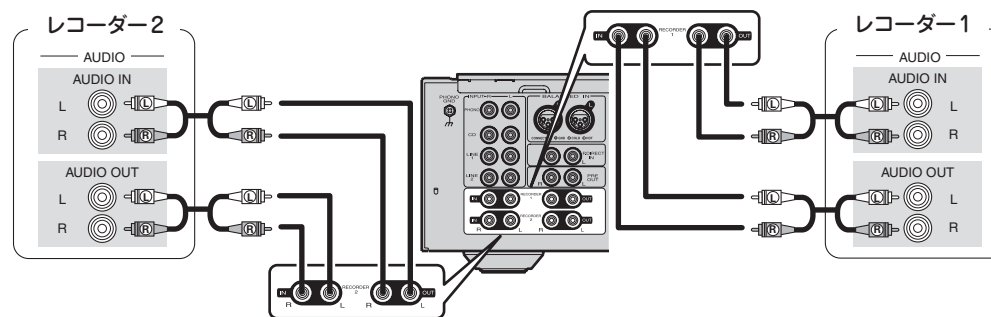
使用するレコードプレーヤーのカートリッジの種類に合わせて、フォノイコライザー切り替えボタンを押して MM または MC に切り替えてください。

❏BALANCED 端子について

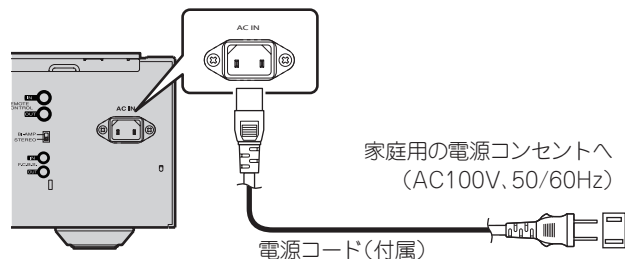
本機では BALANCED 端子に、プロフェッショナル用として広く採用されている、XLR コネクターを使用しています。その特長は次のとおりです。

- 3 ピン構造のため、音楽信号を平衡信号で伝送でき、外来ノイズの影響が少ない
- 着脱ロック機構のため、コネクター部のぐらつきが少なく、信頼性が高い

XLR コネクターの接続方法は、プロフェッショナル用としてタイプが二通りあります。本機では、USA 方式を採用しています。

- USA 方式（② PIN=COLD ③ PIN=HOT）

- ヨーロッパ方式（② PIN=HOT ③ PIN=COLD）

本機と、ヨーロッパ方式を採用している製品とをバランスケーブルで接続すると、信号が逆位相になります。信号の位相を正しくするには、片側の XLR コネクターの ② PIN と③ PIN を逆につなぎ換えてください。

録音機器の接続のしかた

電源コードの接続のしかた

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。

ご注意

電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。

基本操作

再生前の準備

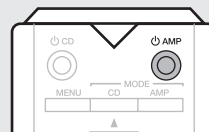
電源をオンにする

本体の ⏻ ON/OFF を押す。

- 電源がオンになります。
- 電源表示が青色に点灯します。
- 数秒後に再生可能な状態になります。

電源をスタンバイにする

リモコンの ⏻ AMP を押す。

- 電源がスタンバイ状態になります。
- スタンバイ表示が赤色に点灯します。

- スタンバイ状態から再び電源をオンにするには ⏻ **AMP** を押してください。
- スタンバイ中に本体の **INPUT SELECTOR** を操作しても電源がオンになります。

ご注意

電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、本体の ⏻ **ON/OFF** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源をオフにする

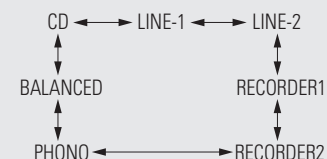
本体の ⏻ ON/OFF を押す。

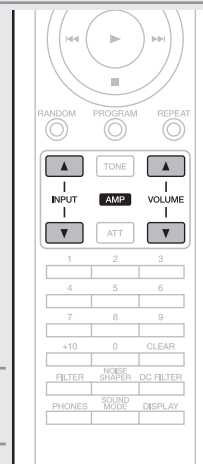
- 電源がオフになります。
- すべての表示が消灯します。

再生のしかた

1 **本体の SPEAKERS A / SPEAKERS B を押して、再生するスピーカーを選ぶ。**

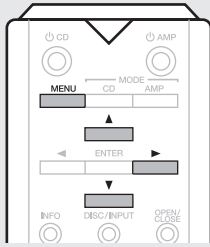
2 **本体の INPUT SELECTOR または、リモコンの INPUT ▲▼ で再生するソースを選ぶ。**

- ボタンを押すたびに、入力ソースが次のように切り替わります。

3 **選択したソースを再生する。**

4 **本体またはリモコンの VOLUME ▲▼ で音量を調節する。**

レベル調節のしかた

❏左右のバランスを調節する

左右の音量を 0.5dB ステップで 0.0dB から－ 9.0dB の範囲で調節できます。お買い上げ時の設定は 0.0dB（最大）です。

1 **リモコンの MENU を 1 回押す。**
レベル調節モードになります。
- L チャンネルのレベル表示が点滅します。

2 **リモコンの ▲ または ▼ で L チャンネルのレベルを調節する。**

3 **リモコンの ▶ を押す。**
R チャンネルの設定モードになります。
- R チャンネルのレベル表示が点滅します。

4 **リモコンの ▲ または ▼ で R チャンネルのレベルを設定する。**

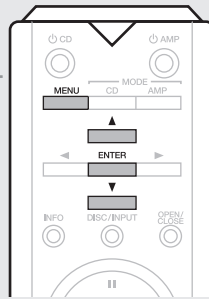
5 **リモコンの MENU を押す。**
レベル調節モードを終了します。
- F.C.B.S 接続で“スレーブ”（☞16 ページ）を接続しているときは、続けてスレーブの設定をします。

トーン調節のしかた

❏低音域のレベルを調節する

低音を 2dB ステップで -8dB 〜 +8dB の範囲で調節できます。お買い上げ時の設定は 0dB です。この調節をする場合は本体またはリモコンの **TONE** でトーンコントロールをオンにしてください。

1 **リモコンの MENU を 1 回押す。**
レベル調節モードになります。

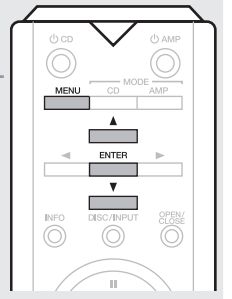
2 **リモコンの ENTER を 1 回押す。**
低音域レベル調節モードになります。

3 **リモコンの ▲ または ▼ でレベルを調節する。**

- 15 秒間操作をしないと、設定を確定し、通常のディスプレイ表示に戻ります。

❏高音域のレベルを調節する

高音を 2dB ステップで -8dB 〜 +8dB の範囲で調節できます。お買い上げ時の設定は 0dB です。この調節をする場合は本体またはリモコンの **TONE** でトーンコントロールをオンにしてください。

1 **リモコンの MENU を 1 回押す。**
レベル調節モードになります。

2 **リモコンの ENTER を 2 回押す。**
高音域レベル調節モードになります。

3 **リモコンの ▲ または ▼ でレベルを調節する。**

- 15 秒間操作をしないと、設定を確定し、通常のディスプレイ表示に戻ります。

ご注意

レベル調節、トーン調節をおこなう場合は、リモコンの **MODE/AMP** を押してリモコンをアンプモードに切り替えてください。

音声をミュートする

音量をミュートします。

本体またはリモコンの ATT を押す。
"ATT" を表示し、音量をミュートします。

- もう一度押すと、ミュートを解除します。

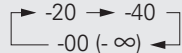
❑減衰量の設定のしかた

- 減衰量の設定は本体の **ATT.** でおこないます。
- 減衰量は -20dB、-40dB、- ∞のいずれかを設定できます。
- お買い上げ時の減衰量は -20dB に設定しています。

1 **本体の ATT. を 2 秒以上押す。**
減衰量設定モード表示をします。

LINE-1
ATT -20

2 **本体の ATT. を押す。**
押すたびに減衰量の設定値が切り替わります。

-20 → -40
-00 (- ∞)

- 約 2 秒間操作をしないと、設定を確定し、通常のディスプレイ表示に戻ります。

ヘッドホンを使って聴く

ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子へ差し込む。

- ヘッドホンをお使いになるときは、本体の **SPEAKERS A / SPEAKERS B** ボタンでスピーカーの出力をオフにしてください。

ご注意

ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないように注意してください。

イルミネーションランプの設定を切り替える

正面パネルの両側のイルミネーションランプのオン / オフを切り替えます。

本体の DISPLAY を 2 秒以上長押しする。
押すたびに設定が切り替わります。

ご使用になる前に
基本接続
基本操作
応用接続
応用操作
用語の解説
故障かな？と思ったら
保証と修理について
主な仕様
索引

F.C.B.S. 接続

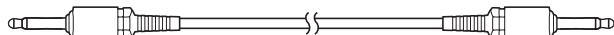
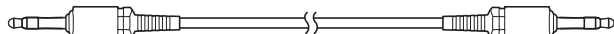
マランツのシステム制御方式 F.C.B.S.(Floating Control Bus System)は、PM-11S3 を複数台(最大 4 台)使っておこなう高品位な再生システムです。それぞれの PM-11S3 に登録した ID を利用して各機器を制御します。
操作をおこなう機器(マスター)と、マスターからの操作コマンドを受ける機器(スレーブ)を、ID の登録で設定します。スレーブにはマスターからの信号を入力する順番に ID 番号を登録します。登録後は、入力ソースの切り替え、音量調節、ATT 機能、ディスプレイ表示、トーンコントロールのオン・オフの切り替えなどの連動操作がおこなえます。
また、複数台を使う再生システムには、通常ステレオ出力の PM-11S3 をモノラル出力アンプに切り替えて使う機能もあります。それぞれの接続の説明に従って設定してください。

F.C.B.S. 接続の準備

❏F.C.B.S. 接続のしかた

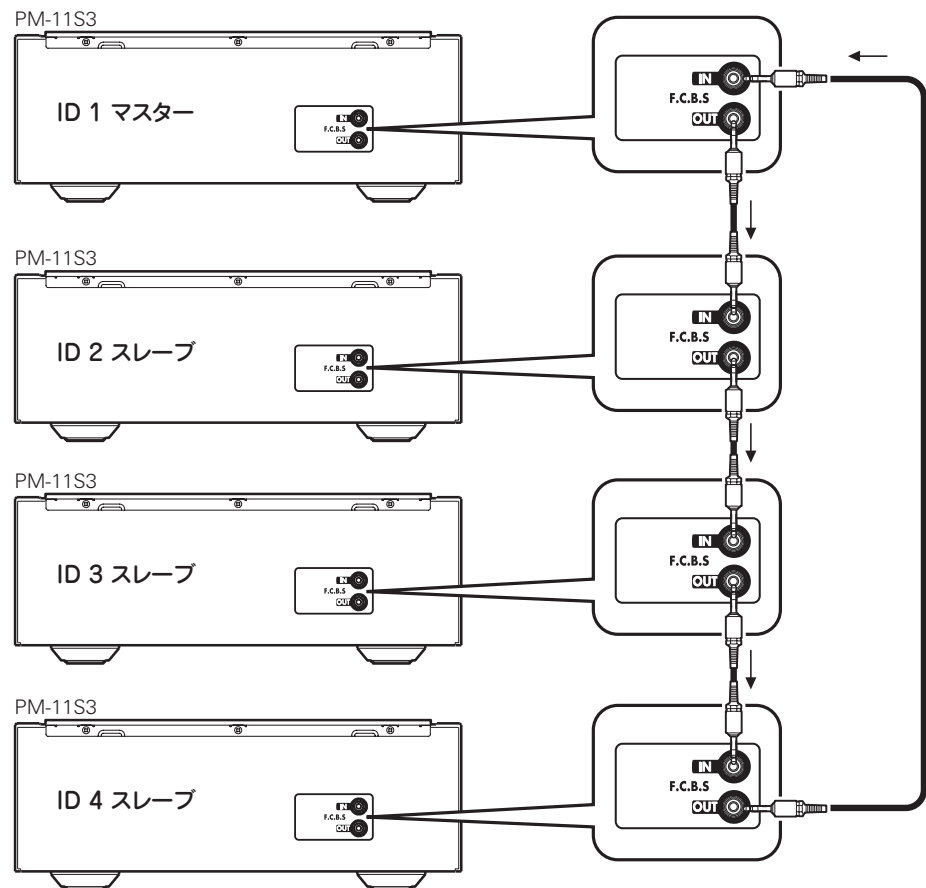
PM-11S3 を複数台使った再生システムには、音声接続の他にこの接続が必要です。
各再生システムの接続については、それぞれの接続の説明をご覧ください。

F.C.B.S. 接続には、市販されている両端がミニプラグのオーディオ接続用コードを、接続する PM-11S3 の台数分ご用意ください。接続コードは下記 2 種類のどちらでもかまいません。

- モノラルミニプラグ⇔モノラルミニプラグの接続コード

- ステレオミニプラグ⇔ステレオミニプラグの接続コード

ご注意

抵抗入りの接続コードは使用できません。

❏接続例

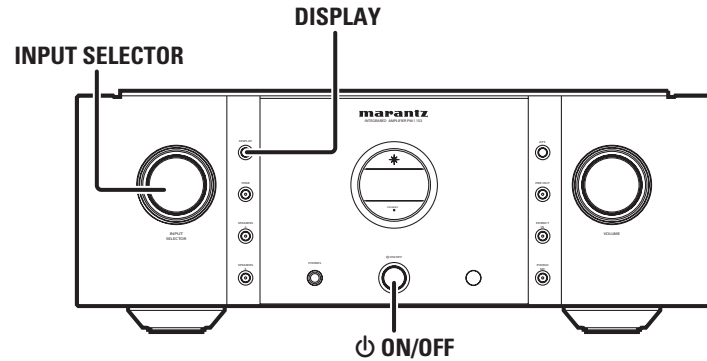
この例では ID 番号 1 のアンプがマスターとなり、ID 番号 2～4 のスレーブ機器 3 台すべてをコントロールします。

ご注意

- PM-11S3 の F.C.B.S. 機能は、PM-11S3 同士間でのみ有効です。当社の他機種(PM-11S2 等)との接続では正常に動作しない場合があります。
- F.C.B.S. 接続した複数台のアンプの電源をオンオフする場合は、ID 番号の小さいアンプから順に電源をオンにして、ID 番号の大きいアンプから順に電源をオフにしてください。

❑F.C.B.S. の ID 番号の設定のしかた

電源をオンにするとディスプレイに ID 番号を約 3 秒間表示します。

ID 0

マスターの ID を"1"に設定します。
スレーブには"2"～"4"の ID 番号を設定します。

1 本体の **DISPLAY** を押しながら ⏻ **ON/OFF** を押す。

ID 0

2 本体の **INPUT SELECTOR** を回して ID 番号を選ぶ。

ID 1

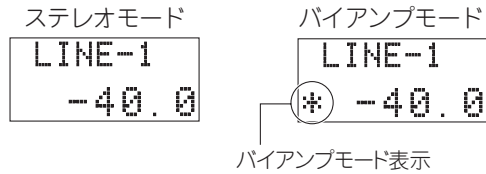
3 電源をオフにする。

4 再度電源をオンにする。
- この設定が記憶されます。
- スレーブに設定した本機のディスプレイには"SLAVE"を表示します。

ご注意
- 本機をステレオアンプとして 1 台で単独使用する場合は ID 番号を"0"に設定してください。（お買い上げ時は"0"に設定されています。）
- ID 番号が"0"以外では単独使用できません。

ステレオコンプリートバイアンプ接続

本機 1 台に搭載している左右のアンプをひとつのモノラルアンプとして使用できるモードです。本機 2 台を F.C.B.S. 接続して使います。
モードの切り替えは、本機の電源がオフの時にリアパネルのアンプモードスイッチでおこないます。

下図はステレオモードとバイアンプモードの表示例です。

バイアンプモードの時は、L チャンネルの入力端子に入力します。R チャンネルは入力動作を停止します。
左右の出力端子から同じ信号が出力されます。

ご注意

- MODE スイッチは必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。電源を再投入することで設定が有効になります。
- バイアンプモード時は R チャンネルの入力端子は使用できません。
- バイアンプモード時は L チャンネルに入力された信号が両方のチャンネルに出力されるため、RECORDER OUT、PRE OUT、PHONES OUT は L チャンネル、R チャンネル共に同じ信号が出力されます。
- コンプリートバイアンプ接続できるスピーカーシステムはバイアンプ接続に対応している必要があります。接続する前にスピーカーシステムの取扱説明書でご確認、または製造メーカーにお問い合わせください。

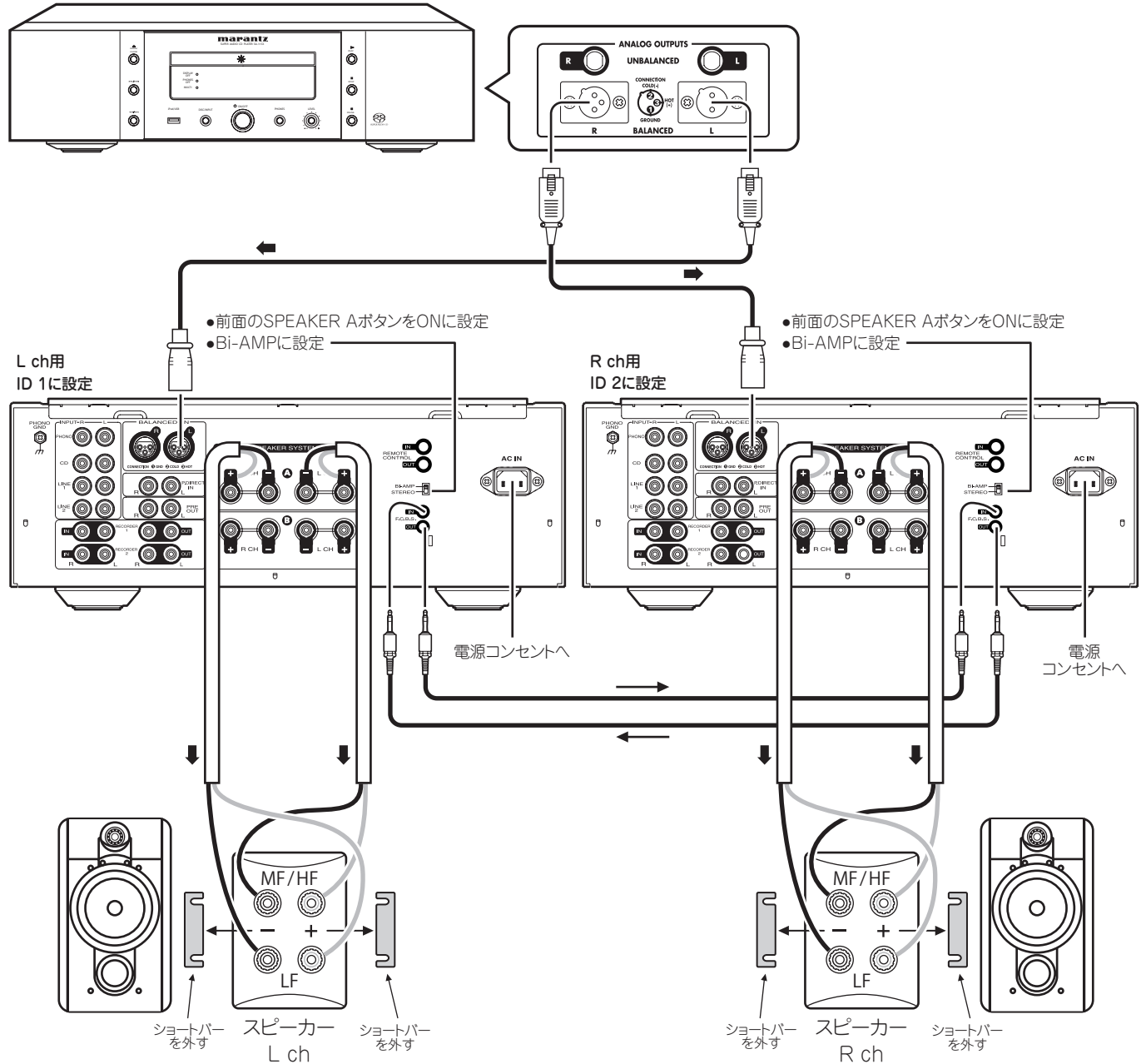
●前面のSPEAKER AボタンをONに設定
●Bi-AMPに設定

L ch用
ID 1に設定

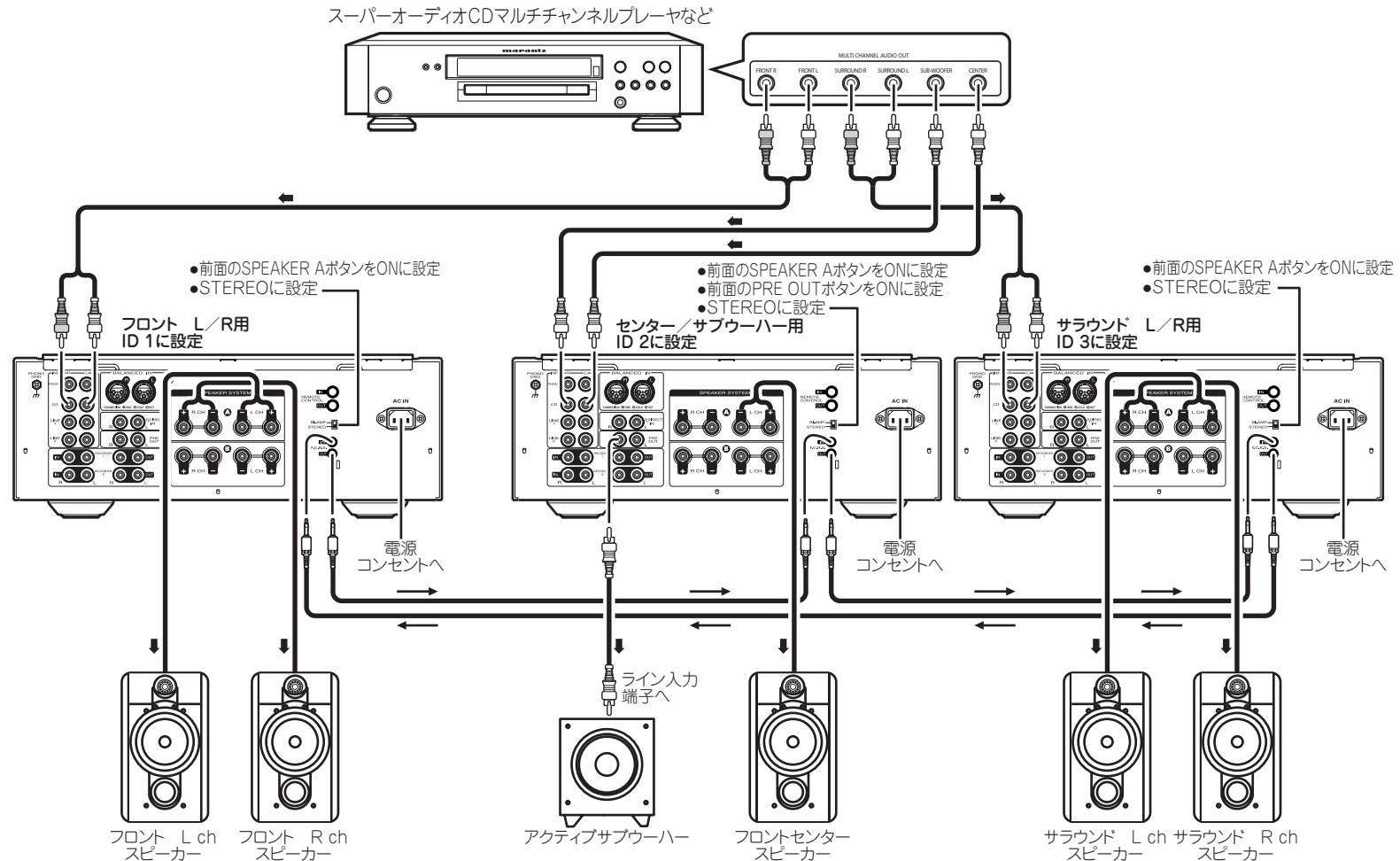
R ch用
ID 2に設定

電源コンセントへ

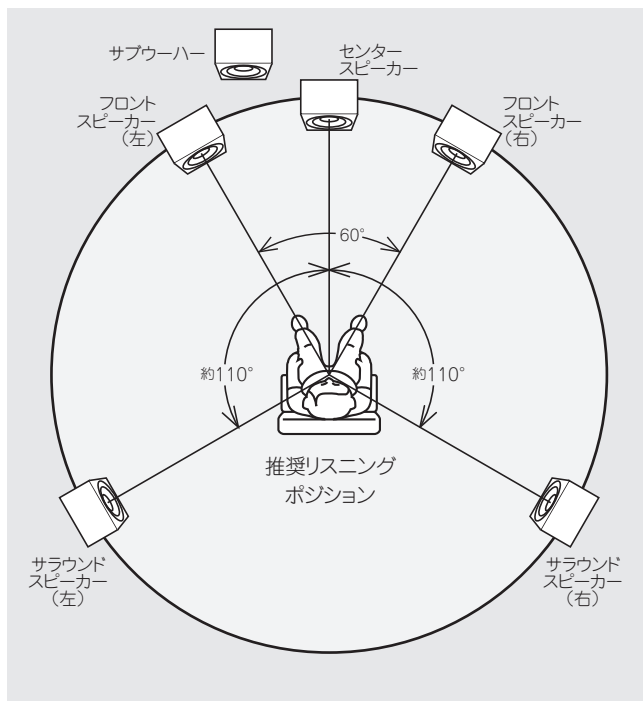
ショートバーを外す
スピーカー
L ch

スピーカー
R ch

5.1 マルチチャンネル再生の接続

① 本機 3 台を F.C.B.S. 接続して連動動作させます。接続には 16 ページにしたがって別売りの接続コードを 3 本用意してください。
② 3 台のアンプの ID 番号を「ID 番号の設定のしかた」（☞17 ページ）を参照して設定してください。
ID1 のアンプを操作すると、ID2 と ID3 のアンプが連動して動作します。
③ 5.1 チャンネルアナログ出力を持つプレーヤーの出力をそれぞれ 3 台のアンプに接続します。
④ アクティブサブウーハーを使用する場合は、アクティブサブウーハーの取扱説明書を参照してください。

ご使用になる前に
基本接続
基本操作
応用接続
応用操作
用語の解説
故障かな？と思ったら
保証と修理について
主な仕様
索引

❏スーパーオーディオ CD マルチチャンネルオーディオのスピーカー設置について

スーパーオーディオ CD マルチチャンネルを最良な音場でお楽しみいただくには、ITU（国際電気通信連合）が定めた規格である「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置をお勧めします。スーパーオーディオ CD マルチチャンネルディスクは、「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置で最良の音場が得られるようにレコーディングやミキシングがおこなわれています。

- スーパーオーディオ CD マルチチャンネルのディスクに記録されている音声信号は 5 チャンネル（3～6 も可能）が基本で、6 番目のチャンネルとして LFE（サブウーハー用）が記録されていることもあります。
- 記録されているチャンネル数はディスクに表示してあります。
- スピーカーシステムの数は、フロント側 3 本、サラウンド（リア）側 2 本、の同タイプ 5 本が基本です。
- 右図のように、フロント（左右）、センター、サラウンド（左右）の各スピーカーシステムをリスニングポジションを中心とする円周上に配置します。
- スピーカーシステムの大きさが異なる時は、アンプ側で各チャンネルの音量を調節してください。
- 図中のサブウーハーの位置は配置の一例です。実際はお部屋の環境に合わせて配置してください。 サブウーハーの接続や設定方法は、機器に付属の取扱説明書をお読みください。

● ITU（国際電気通信連合）

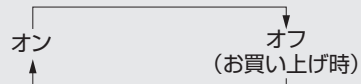
ITU は「International Telecommunication Union（国際電気通信連合）」の略で、国際連合（UN）の専門機関の一つです。ITU-R はその連合を構成する一つの部門で、「無線通信部門」です。

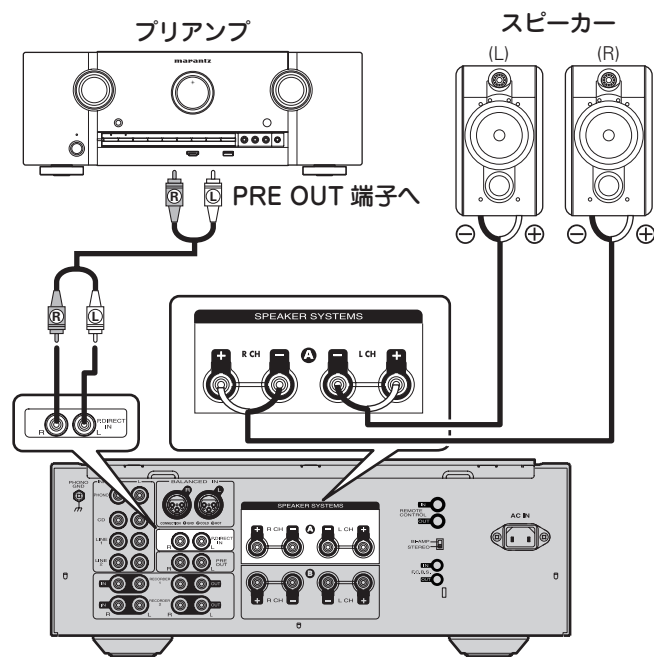
また勧告書の ITU-R BS は“放送業務（音声）”に関する規格で、ITU-R BS.775-1 はその中で「マルチチャンネル立体音響システム」について定められた規格です。

パワーアンプダイレクト端子の接続

プリアンプをお持ちの場合は、図のように接続すると本機をパワーアンプとして使用できます。

本体の P.DIRECT IN ボタンを 2 秒以上押す。

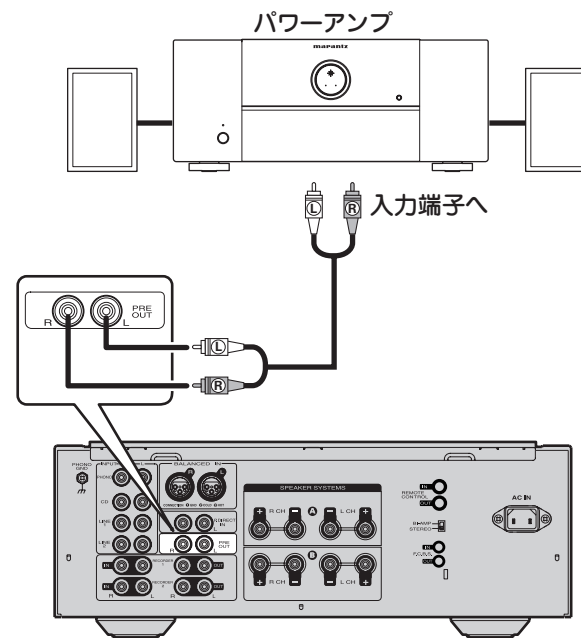
• 押すたびにパワーアンプダイレクトモードが切り替わります。

• オンを選ぶとディスプレイに”POWER AMP DIRECT”を表示します。

オン：パワーアンプダイレクト端子に接続している機器を再生します。
オフ：**INPUT** で選んでいるソースを再生します。

ご注意

• パワーアンプダイレクトモードをオンにすると、本機の音量、バランス、トーンの調節は無効になります。それらの調節は本機に接続しているプリアンプでおこなってください。
• パワーアンプダイレクトモードをオンにすると、本機の音量は最大になります。再生する前に入力側の機器の出力レベルを確認し、音量を調節してください。

PRE OUT 端子の接続

パワーアンプをお持ちの場合は、図のように接続すると、本機をプリアンプとして使用できます。

• 本体のプリアウト切り替えボタン(PRE OUT)を押して、プリアウト機能をオンにしてください。
スピーカーシステムの接続に関しては、ご使用になるパワーアンプの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

パワーアンプダイレクト機能とプリアウト出力は同時におこなえません。

リモートコントロール端子の接続

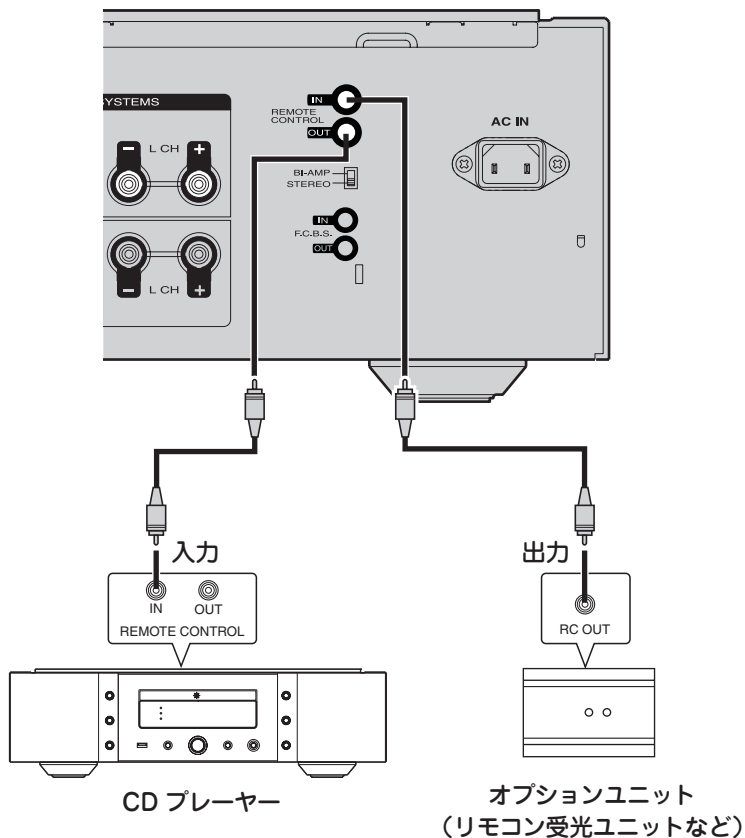
本機にマランツ製オーディオ機器を接続して使用するときに、本機から各機器に操作信号を送り各機器が動作します。

❏接続

接続するマランツ製オーディオ機器に付属しているリモート接続ケーブルで、本機の REMOTE CONTROL OUT 端子と接続する機器の REMOTE CONTROL IN 端子を接続します。

❏設定

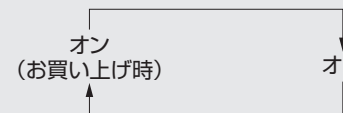
接続している機器の背面にあるリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”または“EXT.”にします。

- 接続している機器はリモコン受光部の受信を停止します。
- 接続している機器を操作するときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 他の機器を通して本機をシステムコントロールする場合は、接続する機器の取扱説明書に記載されている接続方法に従ってください。

応用操作

オートスタンバイモードの設定のしかた

オートスタンバイモードをオンにすると、約 30 分以上選んでいるソースからの入力がない状態が続いたときなどに、本機は自動的にスタンバイになります。

本体の TONE を約 5 秒間押す。

- 押すたびにオンとオフが切り替わります。

- オフを選ぶとディスプレイに”AUTO STBY OFF”を表示します。

- オートスタンバイモードは次の状態が約 30 分間続いたときにも、自動的にスタンバイ状態になります。
  - リモコンの操作がないとき
  - 本体の操作がないとき
- オートスタンバイ動作がはたらく 3 分程度前から、ディスプレイに残り時間を表示します。
- F.C.B.S 接続で使用した場合、オートスタンバイの検出は ID1 マスターのみでおこないます。ID1 マスターに音声入力がない状態で使用する場合は、オートスタンバイモードの設定をオフにしてください。

用語の解説

MM/MC カートリッジ切り替え
レコードプレーヤーに取り付けるカートリッジには、MM 型(Moving Magnet)と、MC 型(Moving Coil)の 2 種類があります。
それら 2 種類の出力レベルはそれぞれ異なるため、本機に搭載しているフォノイコライザーアンプの設定を、お使いのカートリッジの種類に合わせて切り替える必要があります。設定の切り替えは本体の **PHONO MC** でおこないます。

スピーカーインピーダンス
交流抵抗値のことで、Ω(オーム)という単位であらわします。この値が小さいほど大きな出力が得られますが、アンプにかかる負担は増えます。本機が対応しているインピーダンスのスピーカーをお使いください。

バイワイヤリング接続
1 台のスピーカーに対してスピーカーケーブルを 2 本使い、高域と低域のそれぞれの信号を別々に伝送する接続方法です。
この接続では高域用スピーカーユニットと低域用スピーカーユニット間の信号の干渉の影響をおさえることができるため、高品位な再生をお楽しみいただけます。

保護回路
何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、本機の電源をスタンバイ状態にする機能です。過負荷や過電圧から本機内部の回路の破損を防ぎます。

故障かな？と思ったら

困ったときは

❑保護回路について
本機にはアンプ回路およびスピーカーシステムを破損から保護する「保護回路」を搭載しています。
保護回路が動作すると直ぐにミューティング機能が働きます。この時ディスプレイパネルに“PROTECT” の文字が点滅しスタンバイ表示も点滅します。
保護回路を解除するには一旦電源を切って約 1 分後に再投入してください。

●電源投入時
電源投入時アンプ回路が安定するまでの約 8 秒間、保護回路が働きミューティング状態になります。その後、アンプの回路が安定すると保護回路を解除し音が出る状態になります。

●過大な電流が流れたとき
過大な信号が入力されアンプ回路に過大な電流が流れたときやインピーダンスが 4 Ω未満のスピーカーシステムを接続して使用したときなど、設定以上の過電流を検出した場合に保護回路が働きます。誤ってスピーカーコードをショートしたときにも保護回路が働きます。
このとき表示部に PROTECT の文字が点滅して自動的にボリュームを下げます。そして約 8 秒後に保護回路は解除しますので音量を再調節してください。
また、過大な電流が流れ続けた場合は、アンプの電源をオフにし、スタンバイ表示が点滅します。
保護回路を解除するには一旦電源を切って約 1 分後に再投入してください。

●過大な超低域の信号が入力されたとき
設定以上の過大な超低域信号が入力された場合も保護回路が働きます。このときスタンバイ表示が点滅し自動的にボリュームを下げます。そして約 8 秒後に保護回路は解除しますので音量を再調節してください。また、過大な超低域信号の入力が続いた場合やアンプの故障により直流電圧が検出された場合は、アンプの電源をオフにし、スタンバイ表示が点滅します。
保護回路を解除するには一旦電源を切って約 1 分後に再投入してください。

●メインアンプが加熱したとき
過大な信号を入力された状態で連続使用した場合などメインアンプ部の温度が設定以上の温度になると保護回路が働きます。
また、天面の通風孔を塞いで使用した場合や狭いラックに入れての使用した場合にも設定以上の温度になると保護回路が働きます。このときスタンバイ表示が点滅し自動的にボリュームを下げます。そして約 8 秒後に保護回路は解除しますので音量を再調節してください。
保護回路が動作してから一定時間内に温度が下がらなければ、アンプの電源をオフにし、スタンバイ表示が点滅します。
保護回路を解除するには一旦電源を切ってアンプの温度が冷えるのを待って再投入してください。

●アンプが故障したとき
アンプの電源回路に異常を検出した場合は保護回路が働きアンプの電源を自動的にオフにします。また、内部のヒューズが切れた場合も保護回路が働きアンプの電源をオフにします。このときスタンバイ表示が点滅します。
一旦電源を切って数分待ってから再投入してください。再投入してもディスプレイが点灯せずスタンバイ表示が点滅している状態の場合は本機が故障していることが予測されます。

❏エラーメッセージについて

本機を複数台使用して F.C.B.S. 連動動作をした場合、ディスプレイに下表のようなエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合は ID 番号の設定やリモートケーブルの接続に問題がありますので、下表を参考にして ID 番号やリモートケーブルの接続を確認してください。ID 番号の設定は「ID 番号の設定のしかた」（☞17 ページ）を参照してください。

	表示	意味
1	ERROR 02	ID 番号 2 のアンプが重複しています
2	ERROR 03	ID 番号 3 のアンプが重複しています。
3	ERROR 04	ID 番号 4 のアンプが重複しています
→ ID 番号が重複しないように ID 番号を設定してください。		
4	ERROR 11	ID 番号 2～4 のアンプが ID 番号 1 のアンプと通信できません。
→ ID 番号 1 のアンプに電源が入っていない場合は電源を入れてください。 → リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。		
5	ERROR 12	ID 番号 1 のアンプが ID 番号 2～4 のアンプと通信できません。
→ ID 番号 1 のアンプが重複している場合は ID 番号を正しく設定してください。 → ID 番号 1 のアンプに ID 番号 0 のアンプを接続している場合は、ID 番号を正しく設定してください。 → リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。		

❏ 各接続は正しいですか
❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❏ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

症　状	原　因	対　策	関連ページ
電源を入れても、電源表示が点灯せず音が出ない。	• 電源コードプラグの差し込みが不完全である。	• 電源コードプラグの差し込みを点検してください。	13
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路が働いています。	• 一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れなおしてください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	10 5
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機が対応しているインピーダンスのスピーカーを使用していない。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いています。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • 電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、もう一度接続し直してください。	10 10
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。	• 電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–
電源表示は点灯するが、音が出ない。	• スピーカーケーブルの接続が不完全である。 • 入力切り替えつまみの位置が不適当である。 • 音量調節つまみが最小になっている。 • 入力ケーブルの接続が不完全である。 • スピーカー出力切り替え設定がオフになっている。	• 確実に接続してください。 • 正しい位置に切り替えてください。 • 適当な音量に調節してください。 • 確実に接続してください。 • スピーカー出力切り替え設定をオンにしてください。	10 13 13 12 13
左右のスピーカーの片側だけ音が出ない。	• スピーカーケーブルの接続が不完全である。 • 入力ケーブルの接続が不完全である。 • 左右のバランスがずれている。	• 確実に接続してください。 • 確実に接続してください。 • レベル調節の設定を確認してください。	10 12 14
入力ソース切り替えができない、音が出ない。	• パワーアンプダイレクトスイッチがオンになっている。	• パワーアンプダイレクトスイッチをオフにしてください。	21
ステレオのときに、各楽器の位置が左右入れ替わっている。	• スピーカーや入力ケーブルの接続が左右逆になっている。	• 左右の接続を確かめてください。	11, 12
レコード再生のときに、再生音と一緒に“ブーン”という音が出る。	• プレーヤーのアース線が外れている。 • PHONO 端子の接続が不完全である。 • プレーヤーの近くにテレビや AV 機器などがあるため、影響を受けている。	• 確実に接続してください。 • 確実に接続してください。 • 設置位置を変えてみてください。	12 12 –
レコード再生のときに音量を大きくすると再生音と一緒に“ワーン”という音が出る。（ハウリング現象）	• プレーヤーとスピーカーとの距離が近すぎる。 • スピーカーの振動が床を通してプレーヤーに伝わっている。	• できるだけ離して設置してください。 • スピーカーの振動をクッションなどで吸収させてください。	– –

症　状	原　因	対　策	関連ページ
レコード再生のときに音がひずんで聞こえる。	• 針圧が適当でない。 • 針先にゴミがついている。 • カートリッジの不良。	• 正しい針圧に調節してください。 • 針先を確かめてください。 • カートリッジを交換してください。	― ― ―
リモコンのボタンを押しても何も動作しない。	• 電池が切れている。 • リモコンと本体が離れすぎている。 • リモコンと本体の間に障害物がある。 • 違うボタンを押している。 • 電池が正しい極性（⊕ と ⊖）で入っていない。	• 新しい電池に取り替えてください。 • 本機に近づけて操作してください。 • 障害物を取り除いてください。 • 正しいボタンを押してください。 • 正しい極性で電池を入れてください。	14 5 ― ― 5

保証と修理について

❏保証書

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❏修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❏依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名………取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書または製品背面（または底面や側面）に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❏補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

❏お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

項目	仕様
• **定格出力：**	100W × 2（8 Ω負荷）
（20Hz～20kHz 両 ch 同時駆動）	200W × 2（4 Ω負荷）
• **全高調波歪率：**	0.01％
（20Hz～20kHz 両 ch 同時駆動、8 Ω負荷）	
• **出力帯域幅：**（8 Ω負荷、0.05％）	5Hz － 45kHz
• **周波数特性：**（CD、1W、8 Ω負荷）	5Hz － 120kHz ± 3dB
• **ダンピングファクター：**	100
（8 Ω負荷、20Hz～20kHz）	
• **入力感度 / 入力インピーダンス**	
PHONO（MC）：	260µV/100 Ω
PHONO（MM）：	2.7mV/47k Ω
BALANCED：	480mV/40k Ω
CD/LINE：	240mV/20k Ω
P. DIRECT IN：	1.7V/20kΩ
• **出力電圧 / 出力インピーダンス**	
PRE OUT	1.9V/220 Ω
• **PHONO 最大許容入力**（1kHz）	
MC：	10mV
MM：	105mV
• **RIAA 偏差**（20Hz～20kHz）：	± 0.5dB
• **S/N 比**	
（IHF A ネットワーク、8 Ω負荷）	
PHONO（MC）：	76dB（0.5mV 入力、1W 出力）
PHONO（MM）：	88dB（5mV 入力、1W 出力）
BALANCED：	109dB（4V 入力、定格出力）
CD/LINE：	108dB（2V 入力、定格出力）
• **トーンコントロール**	
BASS（50Hz）：	± 8dB
TREBLE（20kHz）：	± 8dB
• **電源電圧：**	AC100V、50/60Hz
• **消費電力（J60065）：**	300W
• **待機消費電力：**	0.2W

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。
AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

索引

寸法

marantz®

お客様ご相談センター

☎ 03-3719-3481

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 ～ 12：00、13：00 ～ 17：00
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

修理に関するお問い合わせは、
添付の**「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」**をご覧ください。

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　－　－　）
ご購入年月日：	年　月　日

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

当社の最新情報をインターネット上でご覧ください。
http://www.marantz.jp

V00

Printed in China　5411 10896 00AM